

# 令和元年度 天文研究会 活動計画

## 1 指導体制

主顧問 瀬戸治夫

顧問 伊藤華子、尾上誠、稲葉侑紀子

## 2 年間目標

### (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像

異年齢集団との交流を通して、自ら考え、判断し、積極的に行動できるリーダーとしての素養を高める生徒。

### (2) 観測技術の向上や研究の質的向上に努める生徒

研究を行い、創作展や東京都SSH校合同発表会でポスター発表を行う。

### (3) 他の生徒・保護者・参加者・参観者への貢献できる生徒

創作展における研究のポスター発表、展示物の作成、プラネタリウムの解説、サイエンスカフェにおける観測会等において、天体についての見識を深め、他の生徒や参加者の興味や関心を高めるように説明方法の工夫や改善を行うことができる生徒。

## 3 指導方針

### (1) 部活動の質と量の工夫

活動は、原則週に2日間（月曜日、水曜日）とし、活動時間は、平日2時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。

### (2) 冬季における観測

日没が早くなり、天体観測ができるようになる10月下旬から2月ぐらいにかけ、観測機材に慣れ、観測技術の向上を目指すことを目標に、放課後から20時までの観測を本校屋上で行う。毎回、保護者の承諾を得た生徒のみとする。

### (3) 天体現象の観測

日食や、月食、彗星の到来など、本校の屋上で観測することができる天体現象が起こる場合、事前に十分な準備を行い、学校長の許可を得た上で、観測を実施する。

### (4) 合宿による天体の観測

夏のペルセウス座流星群の観測を中心に、空が暗く、星が多く見える観測地で合宿による天体観測を行い、観測技術の向上を目指す。

### (5) 研究と発表

観測結果をまとめ、考察し、研究発表を行うことを目指す。創作展・東京都SSH校合同発表会

### (6) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成

挨拶の励行、正しい言葉遣い、自ら進んで進んでリーダーシップがとれ、他の生徒の模範となるようにする。

### (7) 生徒相互の人間関係

部活動として行動していく中で、協調性や責任感を涵養する。

#### 4 指導内容・方法

##### (1) 体罰・暴言等のない指導

- ・ 体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問、生徒、保護者で、体罰・暴言等のない指導について共通理解を図る。

##### (2) 生徒間の暴力禁止

- ・ 上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

##### (3) 外部指導員の活用

- ・ 生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。特に、夜間の活動も多いので、事故防止に努める。

#### 5 部員数

	男子	女子	合計
1年	4	0	4
2年	5	2	7
3年	2	1	3
4年	2	0	2
5年	3	3	6
6年	0	0	0
合計	16	6	22

#### 6 活動日及び活動場所

【活動日】 週2日 月曜日・水曜日

【休養日】 毎週 火曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日

【活動時間】

(平日) 16:00～18:00

(週休日等) なし

【活動場所】 地学室 及び 屋上

#### 7 大会等の主な記録（過去3年）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
校内SSH発表会 東京都SSH合同発表会	校内SSH発表会 東京都SSH合同発表会	

#### 8 年間（月別）活動計画（今年度の参加予定大会を含む）

月	週休日の活動日数	内 容
4	0回	新入生勧誘
5	0回	太陽黒点の観測を軌道に乗せる
6	0回	合宿の準備 観測技術の向上
7	0回	
8	0回	合宿 場所：長野県下伊那郡阿智村浪合1771-1 宿泊：銀河もみじキャンプ場 7月29日（月）～31日（水）2泊3日 予定
9	0回	創作展

10	0回	放課後の天体観測（～20時）までの観測 開始 校内SSH発表会に向けての準備
11	0回	校内SSH発表会で発表 東京都SSH校合同発表会に向けての準備
12	0回	東京都SSH校合同発表会で発表 部分日食の観測準備 観測 12月26日
1	0回	放課後の天体観測（～20時）までの観測 開始
2	0回	記録の整理 来年度の準備
3	0回	新入生 説明会準備